

第3回

滋賀県がん患者 アンケート調査 結果報告

2026年3月発行



滋賀県がん患者団体連絡協議会

がん患者や家族が中心となって「がんになっても安心して暮らせる社会」を目指して活動しています。

■はじめに

『滋賀県がん患者アンケート調査』は、滋賀県にお住まいの「がん患者の今」を知り、何に困っているのか。支援が必要な方にちゃんと届いているのか。がんとの日々をより良いものにするには何が不足していて、何が必要なのかを浮き彫りにし、課題を明確化するための調査です。2019年、2022年に実施し、今回は第3回目の調査(滋賀県委託事業)となります。

返信くださった調査票は927部(回収率は48.9%)でした。自由記載には359名が声を寄せてくださいました。その中に、アンケート調査への感謝を書いてくださった方もおられました。この調査は、がん患者の声を集める大切な窓口です。結果から見えた課題を医療者や病院、関係者に届け、改善されるための基礎資料として意義あるものであることを改めて強く認識しました。

アンケート結果は今実施されている滋賀県がん対策推進計画(第4期)を評価する指標になっています。アンケート結果とひとりひとりの声をがん対策に反映させ、がん医療や支援が、がん患者さんの思いや願いに沿ったものになることを願います。

調査にあたっては、滋賀県内13のがん診療病院のご理解とご協力を得て、滋賀県と滋賀県がん患者団体連絡協議会が行いました。分析にあたっては滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門にご依頼し、ご協力を得ました。

最後に、本調査にご協力いただきました患者、ご家族、病院の皆様にご挨拶いたします。

2026年3月
滋賀県がん患者団体連絡協議会
会長 菊井 津多子

滋賀県がん患者団体連絡協議会

私たちは、滋賀県のがん医療の向上とがんになっても安心して暮らせる社会づくりに貢献したいとの思いから、がん患者とがん患者家族が中心になって発足したボランティア団体です。行政や医療機関と協力しながら、県内のがん患者さんが自分らしく生きられる環境を目指して活動しています。

HP→<https://www.cancer-patients.shiga.jp/>



滋賀県がん患者アンケート調査結果の全文は
HPからご覧いただけます



■目次

調査の概要			p.01
基本情報			
	問1～問4	記入者の別 / 患者の性別・年齢・治療した病院	p.02
	問5～問6	診断時期 / がんの種類	p.03
	問7～問10	ステージ / 再発 / がん治療	p.04
課題別の結果			
情報	問11	医療者への質問	p.05
	問12	妊孕性(にんようせい)温存の説明	p.06
	問13～問14	セカンドオピニオンの説明	p.07
	問15～問17	情報の取得	p.08
緩和ケア	問18	心や身体の痛み	p.09
	問19～問20	相談と対応	p.10
	問21～問22	緩和ケアの認知度	p.11
就労	問23	診断時の就労状況 / 職場の理解	p.12
	問23～問24	仕事の休暇・継続 / 相談窓口	p.13
経済	問25	金銭的負担と治療の継続	p.14
	問26	金銭的負担と生活への影響	p.15
支援	問27～問28	がん相談支援センター/がん患者サロン	p.16
	問29～問30	相談支援や情報提供の充実	p.17
全体を通して	問31	自分らしい日常	p.18
	問32	望みにそった治療	p.19
	問33	納得した医療	p.20
	問34	滋賀県のがん対策に望むこと	p.21
自由記載	問35	数字にあらわれない359人の物語	p.22
総括		アンケート調査を終えて	p.31

【報告集計にあたっての注意点】

- ・ 病院ごとで回答者数も異なり、数値の意味合いも異なるため、解析は全体をまとめて行いました。
- ・ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。
- ・ 全体の回答者数と当該の質問に適切に回答された人数が異なる場合があるため、各質問項目に有効な回答をしていただいた方の総数を母数として、項目ごとの回答構成比率を示しました。
- ・ いくつかのページにはクロス集計表があります。クロス集計とは、データを有効に活用するために行う集計方法の一つです。質問と質問を掛け合わせて、データの回答傾向や関係性を見つけることができます。
- ・ 2022年度のデータと比較したのがあります。2022年度は無回答の数値を考慮していませんでした。2025年度から無回答を入れて100%としたため、比較に必要な2022年度のデータを再計算しています。2022年度の報告書と数値の異なるものがあるのはそのためです。

■調査の概要

1)調査目的

滋賀県在住で県内の地域がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院・滋賀県がん診療連携支援病院に入院または通院する18歳以上のがん患者に対して、受療状況、暮らしや医療に対する満足度やがん医療に関する認知度などの項目を質問紙法(アンケート調査)によって収集し、滋賀県のがん患者の実情を明らかにすることで、県が取り組むべき課題を明確化し、具体的な対策に役立てること、また、県内のがん患者の姿をまとめ、公表することで、県民の「がん」への関心と理解を深めることを目的とする。

2)実施主体

滋賀県
滋賀県がん患者団体連絡協議会

3)調査協力病院

都道府県がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院
滋賀県がん診療連携支援病院

4)調査方法

- ・無記名アンケート調査
- ・各病院に入院または通院しているがん患者に対して、医師または看護師が、滋賀県がん患者調査事業の協力を依頼し、調査票と返信用封筒が入った封筒を配布する。
- ・調査票を受け取ったがん患者は、調査票に記入し、同封の返信用封筒により、調査票を郵送する。
- ・返信用封筒の宛先は滋賀県健康医療福祉部健康しが推進課とした。

5)調査期間

2025年(令和7年)7月から9月末日(消印有効10月15日まで)

6)調査対象者

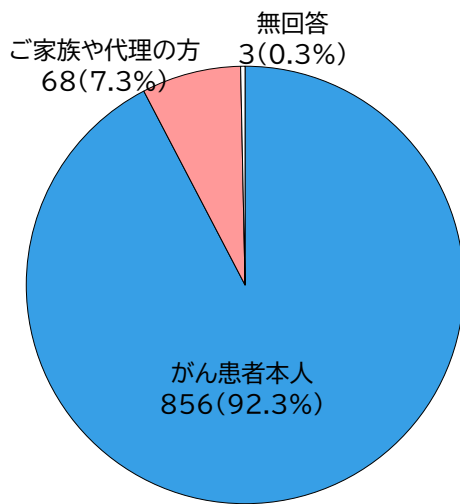
調査協力病院に通院または入院している18歳以上の滋賀県在住のがん患者

7)調査票配布・回収数

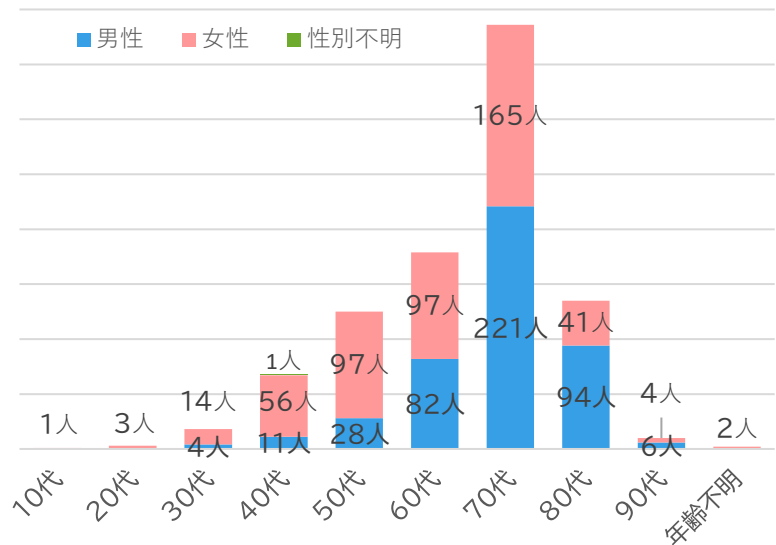
	2025年	2022年	2019年
配布数	1,895	1,803	1,853
回収数	927	989	950
回収率(回収数/配布数)	48.9%	54.9%	51.3%

■基本情報 <<記入者の別/患者の性別・年齢・治療した病院>>

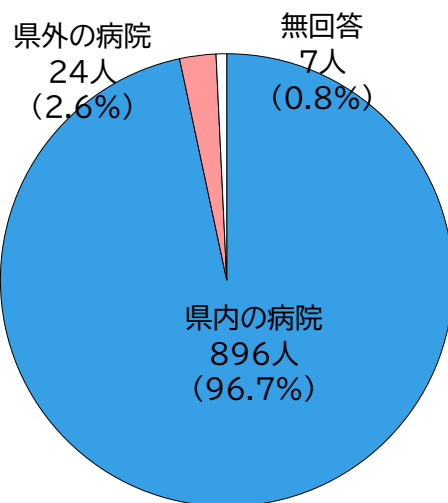
(問1) 記入者はどなたですか？



(問2・問3) 患者さんご本人の性別・現在の年齢



(問4) 最初にがん治療のためにかかった病院はどこですか【〇はひとつだけ】



🌿 病院の選択肢

「大津赤十字病院」「滋賀医科大学医学部附属病院」
 「市立大津市民病院」「滋賀県立総合病院」
 「淡海医療センター」「済生会滋賀県病院」
 「公立甲賀病院」「近江八幡市立総合医療センター」
 「東近江総合医療センター」「彦根市立病院」
 「市立長浜病院」「長浜赤十字病院」「高島市民病院」
 「その他県内の病院」「その他県外の病院」
 などがありました。

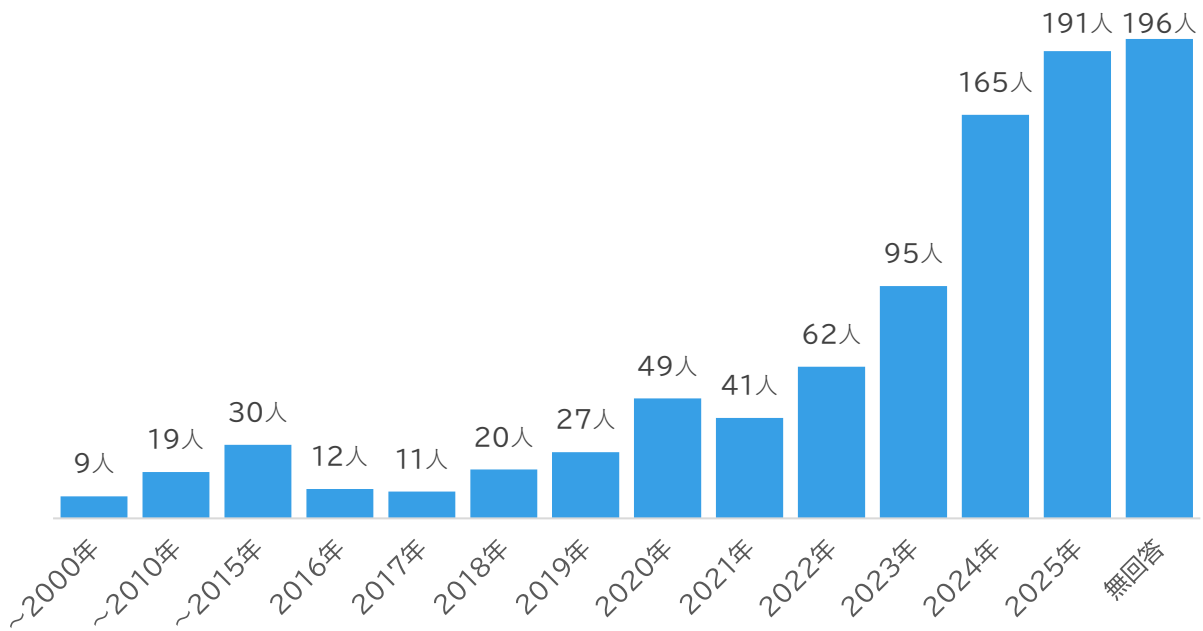
(問4-a) <問4で「その他県外」と答えた方>

県外の医療機関を選択した理由についてお聞かせください【当てはまるものすべてに〇】

回答	回答者	比率
紹介された医師・病院が県外にあった	7人	29.2%
県内に希望する治療法を提供している病院がなかったため自ら選んだ	4人	16.7%
家族や親族の住む地域で治療を受けたかった	4人	16.7%
勤務地・学校に近い	6人	25.0%
その他	6人	25.0%

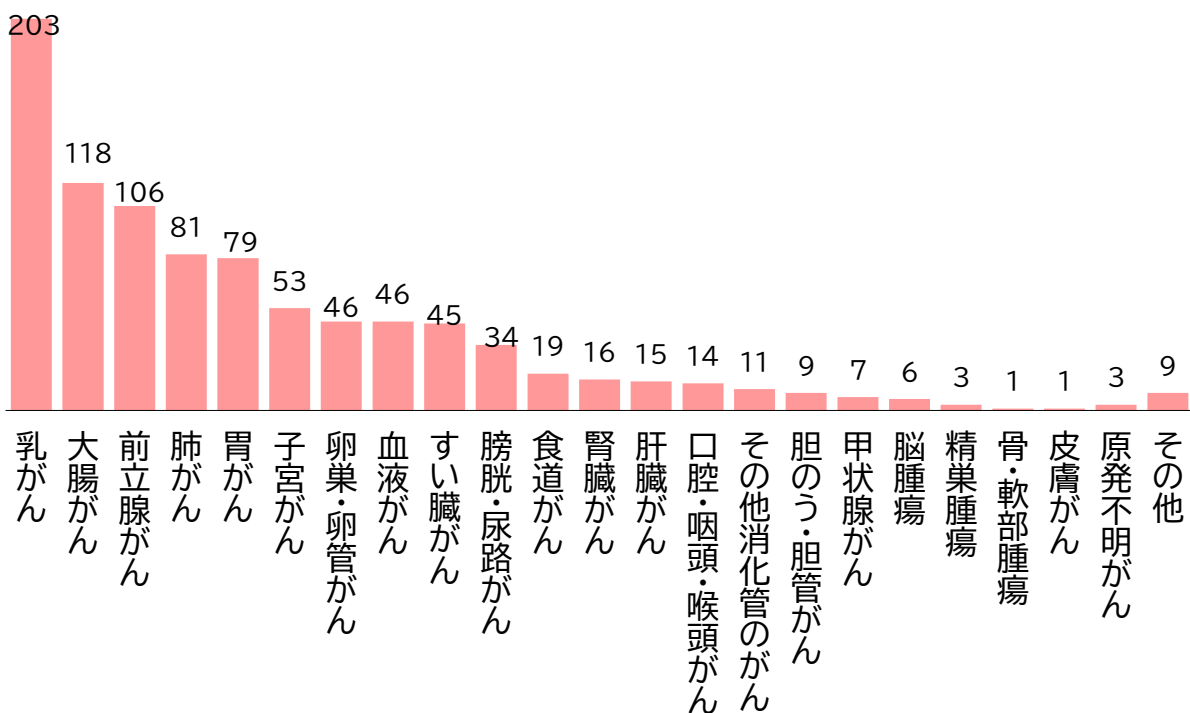
■基本情報<<診断時期/がんの種類>>

(問5) がんと最初に診断されたのはいつ頃ですか



診断された時期については、無回答の方が多くおられました。具体的な年を思い出すのが難しい場合もあったかもしれません。次回は『〇年くらい前』や『〇〇年～〇〇年頃』といった、より答えやすい選択肢を設けるなどの工夫を検討したいと思います。

(問6) 最初に何がんと診断されましたか【〇はひとつだけ】



「その他」の内容

胸腺がん・唾液腺がん・耳下腺がん・悪性中皮腫・腹膜癌 他

■基本情報<<ステージ/再発/がん治療>>

(問7) 診断された時のがんの進行度(ステージ)をお答えください【〇はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
0期	42人	4.5%
I期(1期)	189人	20.4%
II期(2期)	147人	15.9%
III期(3期)	158人	17.0%
IV期(4期)	205人	22.1%
わからない	154人	16.6%
無回答	32人	3.5%

(問8) がんの再発の有無をお答えください【〇はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
再発あり	229人	24.7%
再発なし	375人	40.5%
わからない	282人	30.4%
無回答	41人	4.4%

(問9) 現在のがんの治療状況を教えてください【〇はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
治療開始前	10人	1.1%
治療中	566人	61.1%
治療が終わり経過観察や定期検査で通院している	344人	37.1%
無回答	7人	0.8%

(問10) がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください【当てはまるものすべてに〇】

回 答	回答者	比率
手術(内視鏡・腹腔鏡など含む)	633人	68.3%
薬物療法(抗がん剤・分子標的薬・ホルモン療法など)	716人	77.2%
放射線治療	299人	32.3%
緩和ケア	25人	2.7%
治療をしていない	11人	1.2%
わからない	1人	0.1%
その他	7人	0.8%

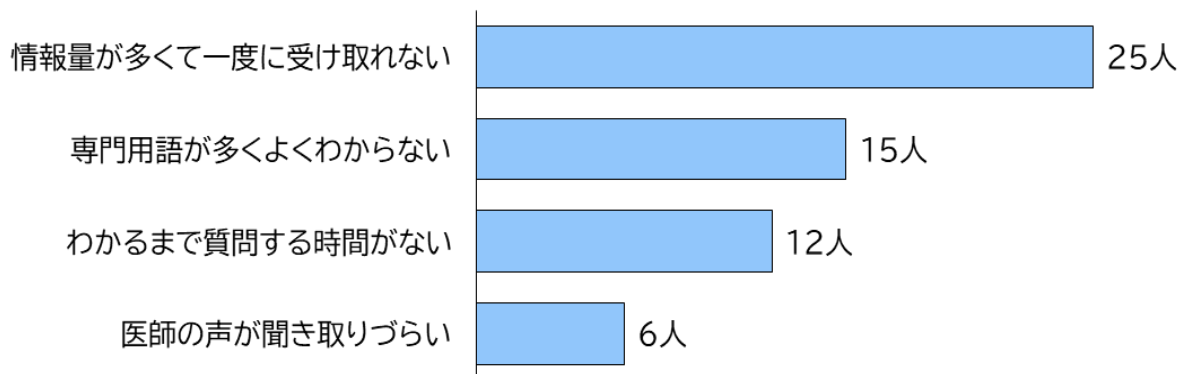
■情報について<<医療者への質問>>

(問11) 診断や治療方針について、医師等に分からなかった事などを質問できましたか【〇はひとつだけ】

回答	回答者	比率
よく分かったため、質問していない→問12へ	191人	20.6%
質問し、よく分かった→問12へ	645人	69.6%
質問したが、結局、分からなかった→問11-aへ	46人	5.0%
分からなかったが、質問できなかった→問11-bへ	29人	3.1%
説明を受けていない→問12へ	3人	0.3%
無回答	13人	1.4%

(問11-a) <問11で「質問したが、結局、分からなかった」と答えた方へ>

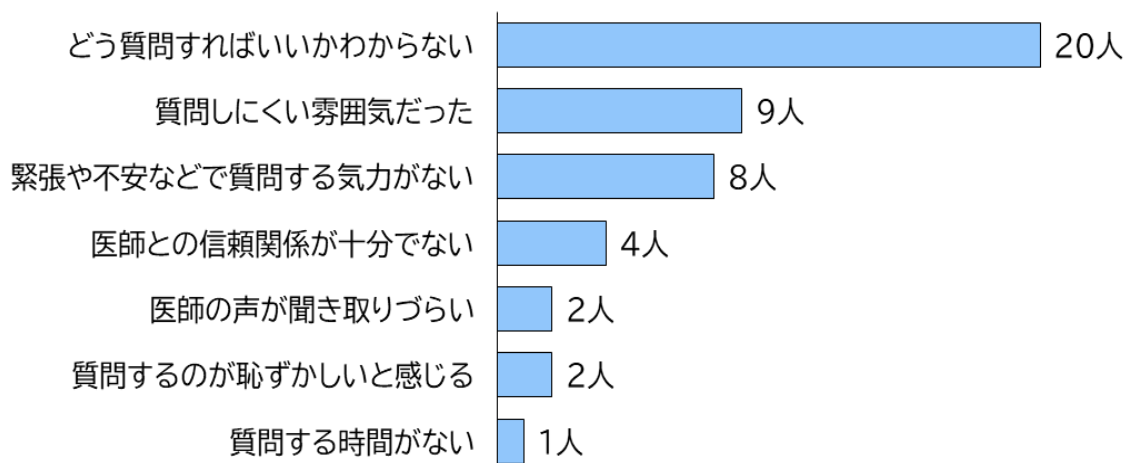
質問したが結局分からなかったのはなぜだと思いますか【当てはまるものすべてに〇】



「その他」に、「サッと説明されても呑み込めない」「知識のレベルが違うから質問する要領が準備できなかった」「不親切、はっきりと説明がなかった」などの声がありました。

(問11-b) <問11で「分からなかったが、質問できなかった」と答えた方へ>

質問できなかったのはなぜだと思いますか【当てはまるものすべてに〇】

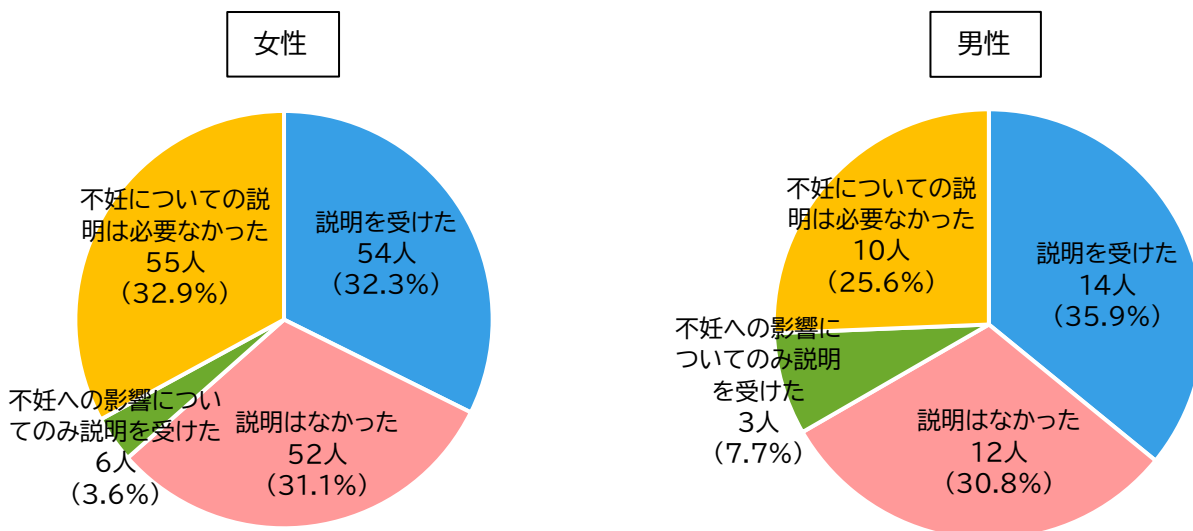


■情報について<<妊孕性温存の説明>>

(問12) 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響や妊孕性(にんようせい)の温存について、医師から説明を受けましたか【〇はひとつだけ】

回答	回答者	比率
説明を受けた	183人	19.7%
説明はなかった	257人	27.7%
不妊への影響についてのみ説明を受けた	11人	1.2%
妊孕性の温存についてのみ説明を受けた	0人	0.0%
不妊についての説明は必要なかった	258人	27.8%
無回答	218人	23.5%

♣ 男女別の妊孕性に関する説明の有無を50代以下のみを対象に集計した



50代以下で説明を受けた人は女性3割、男性は3割強に留まり、必要な方に情報が届いているとは言えません。

■情報について<<セカンドオピニオンの説明>>

(問13) 「がん治療」を決めるまでの間、医療者は、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか？【○はひとつだけ】

全体 回答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
十分提供してくれた	686人	74.0%	70.2%
提供してくれたが不十分だった	111人	12.0%	11.7%
全くなかった	10人	1.1%	1.0%
わからない	92人	9.9%	10.8%
無回答	28人	3.0%	6.3%

(問14) がん治療が始まる前、治療中にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか【○はひとつだけ】

全体 回答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
説明があり、受けた	76人	8.2%	8.6%
説明があつたが、受けていない	320人	34.5%	37.1%
説明はなかったが、質問して受けた	31人	3.3%	3.2%
説明はなかった	371人	40.0%	34.0%
わからない	88人	9.5%	11.9%
無回答	41人	4.4%	5.2%

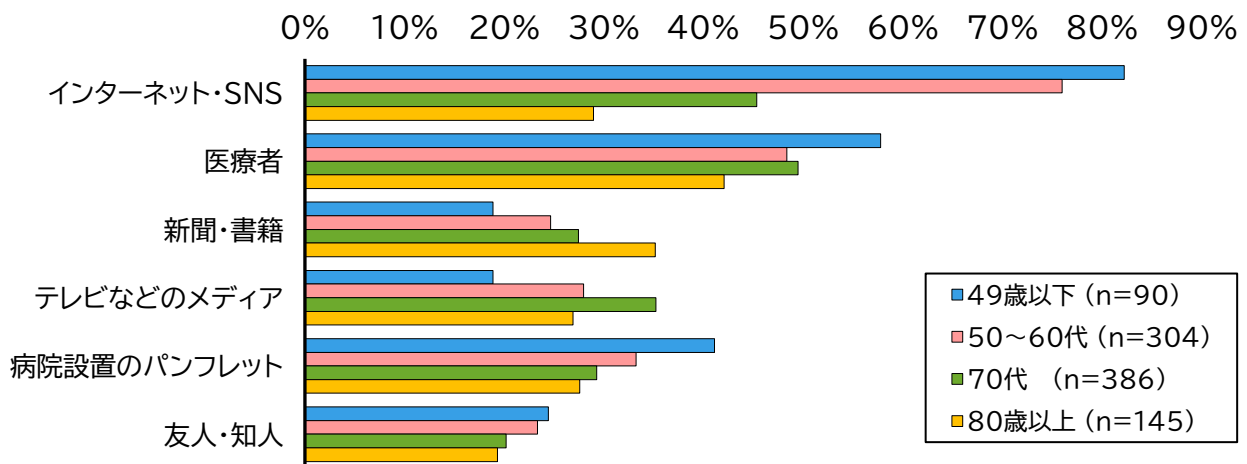
セカンドオピニオンの説明がなかった方は4割に上り、2022年度(34%)から6ポイント悪化しています。これは患者の大切な権利ですが、「主治医に気を遣う」「医師から高額な費用と時間がかかると言われ、断念した」という声や、「セカンドオピニオンを求めたが対応に否定的であった」とのコメントもありました。

現在、患者が希望するタイミングでセカンドオピニオンを受け、納得した上で治療に臨める体制は、依然として十分とは言えません。また、セカンドオピニオンは転院を目的とするものではなく、「別の医師の意見を求めるためのもの」とであるという正しい理解も重要です。

そのためには、医療者がセカンドオピニオンの意義や必要性を十分に理解し、患者に対して適切な情報提供がされることを望みます。

■情報について<<情報の取得>>

(問15) がん医療の情報やがんの療養情報を何から得ていますか【当てはまるものすべてに○】



(問16) 県や滋賀県がん患者団体連絡協議会では、がんについてさまざまな情報発信をしています。以下の媒体について、知っているものをお答えください【当てはまるものすべてに○】

全体 回答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
滋賀の療養情報(滋賀県作成の冊子)	206人	22.2%	8.2%
がん情報しが(滋賀県がん情報ポータルサイト)	81人	8.7%	2.3%
がんとともに生きるあなたへ(滋賀県がん患者団体連絡協議会サイト)	98人	10.6%	0.6%

(問17) 知りたかった情報の中で足りなかったものは何ですか【当てはまるものすべてに○】

回答	回答者	比率
がんの治療方法について	180人	19.4%
病院の診療体制や治療について	114人	12.3%
緩和ケアについて	52人	5.6%
がん治療にかかる費用について	271人	29.2%
自宅での療養生活について	109人	11.8%
経済的支援や利用できる社会保障制度など	156人	16.8%
がん治療と仕事・学業との両立について	72人	7.8%
治療に伴う後遺症や障害について	200人	21.6%
副作用について	257人	27.7%
脱毛などアピアランスについて	83人	9.0%
妊孕性(にんようせい)の温存について	8人	0.9%
がんの病態や統計データなど	68人	7.3%
その他	33人	3.6%

■緩和ケアについて<<心や身体の痛み>>

(問18) 治療前や治療時の心の状態や身体の痛みなどの苦痛についてお聞かせください
【当てはまるものすべてに○】

回 答	回答者	比率
痛みや不安、心配はなかった→問19 へ	225人	24.3%
身体に痛みや不快感があった→問19 へ	337人	36.4%
心が不安になったり、気持ちのつらいことがあった→問18-a へ	370人	39.9%
生活上の心配があった→問18-a へ	226人	24.4%
わからない→問19へ	40人	4.3%
その他→問19 へ	8人	0.9%

(問18-a) <問18で「心が不安になったり、気持ちがつらいことがあった」
「生活上の心配があった」と答えた方へ>
不安になったり心配したりした理由は何だと思えますか【当てはまるものすべてに○】

回 答	回答者	比率
治療費など経済的な不安	232人	49.6%
学業への影響が不安(本人・家族)	12人	2.6%
就業への影響が不安(本人・家族)	144人	30.8%
育児への影響が不安	35人	7.5%
介護の影響が不安(本人・家族)	133人	28.4%
その他	119人	25.4%

「その他」と回答した方が、119人と多かったのは、選択肢に心身の不安に関するものがなかったためでした。「その他」のご意見を再分類した結果が下記の表です。

回 答	回答者	比率
病状・予後・死への恐怖	37人	7.9%
漠然とした不安・情報不足・社会的な不安	23人	4.9%
日常生活の維持・家事・自立	17人	3.6%
身体的苦痛・副作用・治療そのものへの不安	15人	3.2%
家族への気兼ね・家族の将来の心配・関係性	13人	2.8%
精神疾患との併存・孤独・強い精神的ストレス	5人	1.1%
不安はない・解消された	2人	0.4%
その他	1人	0.2%

■緩和ケアについて<<相談と対応>>

(問19) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等の病院スタッフに相談できましたか
【〇はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
相談できた	439人	47.4%	50.7%
相談できたが十分でなかった	141人	15.2%	13.1%
相談できなかった	103人	11.1%	9.1%
相談する必要はなかった	178人	19.2%	22.0%
無回答	66人	7.1%	5.1%

(問20) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等の病院スタッフが対応してくれましたか
【〇はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
対応してくれた	439人	47.4%	50.7%
対応してくれたが十分ではなかった	141人	15.2%	13.1%
対応してくれなかった	103人	11.1%	9.1%
対応は必要なかった	178人	19.2%	22.0%
無回答	66人	7.1%	5.1%

問18-a 「その他」に寄せられた、あるご家族の言葉です。

「可能な限り、在宅生活を望んだ本人。ようやく心身が悲鳴を上げ、緩和ケアを求めた時に速やかに支援の手が差し伸べられるのかが家族としては不安だった。そしてその不安の通り、本人がそれを望んだ時には手続等の壁が立ちほだかり間に合わなかった。」

ご家族の不安が的中してしまいました。なぜそんなことが起こったのか。がんと診断された時からの「緩和ケア」の在り方を、医療、支援、患者と家族の立場から考える必要があると思います。

■緩和ケア<<緩和ケアの認知度>>

(問21) 「緩和ケア」という言葉を知っていますか【○はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
聞いたことがあります、内容も知っている → 問21-a へ	330人	35.6%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない → 問22 へ	485人	52.3%
聞いたことがない → 問22 へ	82人	8.8%
無回答	30人	3.2%

(問21-a) <問21で「聞いたことがあります、内容も知っている」と答えた方へ>

「緩和ケア」は、がんが進行した時からではなく、がんと診断された時から受けられると知っていましたか【○はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
知っている	163人	49.4%
知らない	166人	50.3%
無回答	1人	0.3%

(問22) 「緩和ケア」を受けたいですか、受けなかったですか【○はひとつだけ】

回 答	回答者	比率
受けている、受けた	65人	7.0%
受けたい、受けなかった	163人	17.6%
必要ない、必要なかった	337人	36.4%
わからない	312人	33.7%
無回答	50人	5.4%

問21-a では「積極的な治療中は利用できないと思っていた」との声が寄せられました。緩和ケアは終末期に受けるものというイメージが今なお強く、心身の苦痛を抱えたまま耐えている現状がありますが、我慢する必要はありません。緩和ケアは、その病状に関わらず、がんによる身体と心の痛みを和らげるためのものです。患者や家族がそのことを正しく知り、適切な時に利用できる体制づくりが必要だと思えます。医療現場においても、終末期だけでなく「診断された時から受けられるケア」であることを、より丁寧に説明されることを望みます。

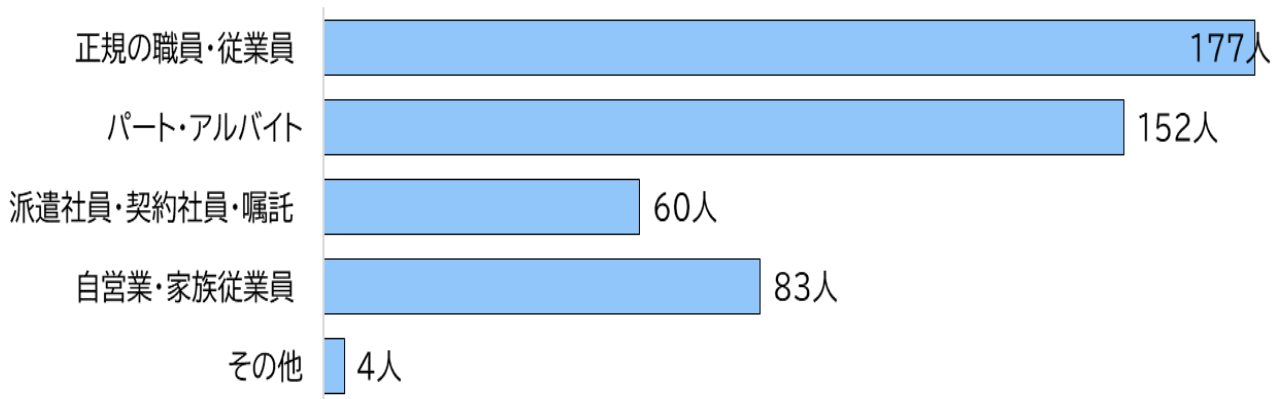
■就労について<<診断時の就労状況/職場の理解>>

(問23) がんと最初に診断された時収入を得る仕事をしていましたか【〇はひとつだけ】

回答	回答者	比率
していた→問23-a～問23-dへ	482人	52.0%
していなかった→問24	428人	46.2%
無回答	17人	1.8%

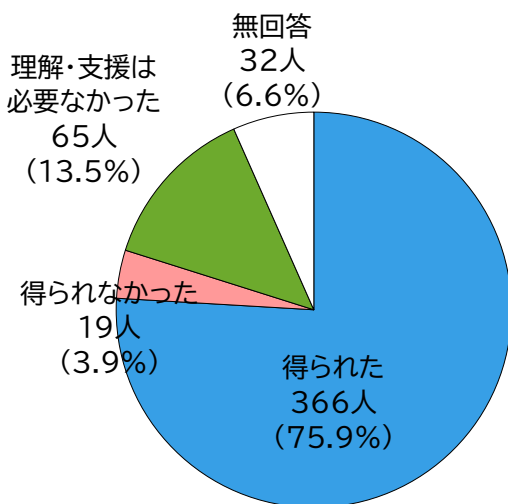
(問23-a) <問23で「していた」と答えた方へ>

がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況などについて教えてください
【〇はひとつだけ】



(問23-b) <問23で「していた」と答えた方へ>

がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか
【〇はひとつだけ】



🍀 仕事の継続に対する事業主からの理解・支援が得られたかどうかについて、最初にごんと診断された時の就労状況別にクロス集計した

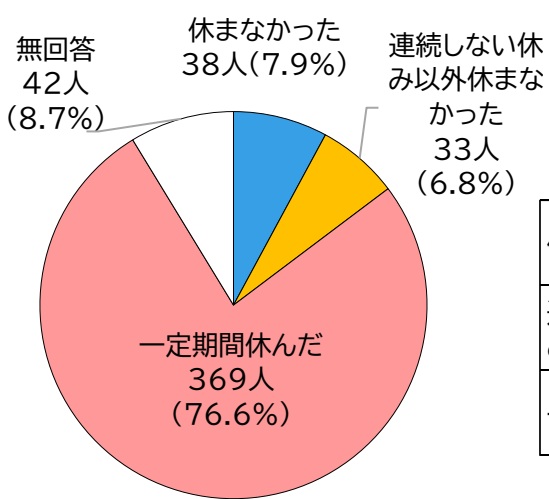
	正規雇用 (n=177)	非正規雇用 自営 (n=305)*
得られた	89.7%	68.9%
得られなかった	4.6%	3.6%
理解・支援は必要なかった	4.6%	18.9%

* (n=305) 問23でパート・アルバイト、派遣社員・契約社員・嘱託、自営業・家族従業員、その他と回答した人の合計

■就労について<<仕事の休暇・継続/相談窓口>>

(問23-c) <問23で「していた」と答えた方へ>

がんで初めて治療・療養をした時、一定期間、仕事を休みましたか【○はひとつだけ】

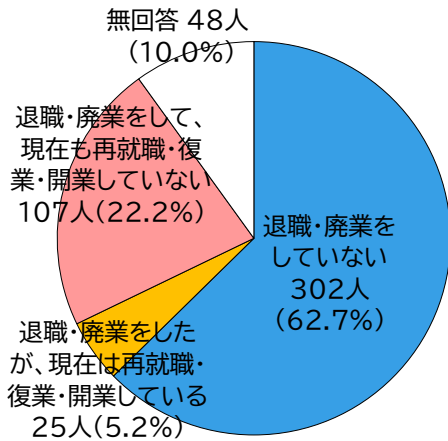


✿ がんで初めて治療をした時に、仕事を休んだかどうかについて、最初のがんと診断された時の就労状況別にクロス集計した

	正規雇用 (n=177)	非正規雇用・ 自営 (n=305)*
休まなかった	3.4%	10.6%
連続しない休み(1日や半日の休みなど)以外休まなかった	10.9%	4.6%
一定期間休んだ	83.3%	73.5%

(問23-d) <問23で「していた」と答えた方へ>

がん治療・療養のための退職・廃業の有無について教えてください【○はひとつだけ】



✿ がん治療のために退職・廃業したかどうかについて、最初のがんと診断された時の就労状況別にクロス集計した

	正規雇用 (n=177)	非正規雇用・ 自営 (n=305)*
退職・廃業をしていない(休職・休業中を除く)	78.7%	54.3%
退職・廃業をしたが、現在は再就職・復業・開業している	3.4%	6.3%
退職・廃業をして、現在も再就職・復業・開業していない	10.9%	28.5%

(問24) 県内の病院では、がん患者を対象とした就労に関する各種相談を実施しています。それらを知っていますか【○はひとつだけ】

回答	回答者	比率
参加したことがある	8人	0.9%
参加したことはないが、知っている	203人	21.9%
知らない	658人	71.0%
無回答	58人	6.3%

■経済について<<金銭的負担と治療の継続>>

(問25) 金銭的負担が原因で、がん治療を変更・断念したことがありますか【○はひとつだけ】

全 体 回 答	滋賀県(927人)		国がん調査*
	回答者	比率	比率
ある→問25-aへ	19人	2.0%	1.8%
ない→問26へ	889人	95.9%	98.2%
無回答	19人	2.0%	—

*国がん調査:国立がん研究センター厚生労働省委託事業 患者体験調査報告書 令和5年度調査(最終版)
全国のがん診療連携拠点病院などを対象に、患者さんが直面する苦痛や生活上の課題を把握する大規模調査です。集計結果は、国の「がん対策推進基本計画」の評価や改善に直接活用される重要な基礎資料となります。令和5年度調査では、診断から療養生活までの実態が詳細に報告されています。

*国がん調査では、無回答は除外して集計されている

✿ 金銭的負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがあるかどうかについて、年代別にクロス集計した

■年代4分類別	40代以下 (n=90)	50~60代 (n=304)	70代 (n=386)	80代以上 (n=145)
ある	4.4%	2.3%	1.0%	2.8%
ない	95.6%	97.0%	96.9%	92.4%

✿ 金銭的負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがあるかどうかについて、再発の有無別にクロス集計した

■再発有無別	再発あり (n=223)	再発なし (n=373)	わからない (n=272)
ある	4.0%	1.6%	1.1%
ない	96.0%	98.4%	98.9%

「金銭的負担が原因でがん治療を変更・断念した人」は、国がんの調査と差はありませんでした。クロス集計で、「年代別」「再発有無別」で比較しました。40代以下の金銭負担が大きいこと、治療が長引くことによる、仕事への影響や家計への圧迫が大きいことがわかります。

(問25-a) <問25で「ある」と答えた方へ>

金銭的負担が原因で、変更・断念したがん治療は以下のどれでしたか【当てはまるものすべてに○】

全 体 回 答	滋賀県(19人)		国がん調査
	回答者	比率	比率
保険診療範囲内の治療	9人	47.4%	51.1%
保険診療範囲外の治療(先進医療を含む)	11人	57.9%	51.6%

*国がん調査:金銭的負担が原因で、がん治療を変更・断念した人を対象。無回答は除外して集計されている。

■経済について<<金銭的負担と生活への影響>>

(問26) 金銭的負担が原因で、次に挙げたようなことがありましたか【当てはまるものすべてに○】

全 体 回 答	滋賀県(927人)		国がん調査
	回答者	比率	比率
そのようなことはなかった	529人	57.1%	75.8%
株・保険・預貯金など長期に積み立ててきたお金を切り崩した	191人	20.6%	16.5%
日常生活における食費、衣料費を削った	119人	12.8%	6.8%
金銭的負担のために患者本人が仕事を続けざるを得なかった、あるいは転職せざるを得なかった	31人	3.3%	3.6%
親戚や他人から金銭的援助を受けた(借金を含む)	27人	2.9%	2.7%
収入を増やすため、家族が仕事を増やした、あるいは働くようになった	20人	2.2%	1.3%
主治医に処方薬や治療法を安価なものに変更してもらった	18人	1.9%	1.7%
受診の間隔を延ばしたり、受診を一時的に見送ったりした	11人	1.2%	1.0%
車・家・土地などを手放した、あるいは引っ越した	10人	1.1%	0.7%
治療頻度や治療内容(薬など)を主治医に相談せずに自分で減らした	4人	0.4%	0.5%
家族の進学先を変更した(進学をやめた/転校した)	2人	0.2%	0.2%
わからない	32人	3.5%	—
その他	14人	1.5%	2.2%

✿ 金銭的負担により、どのようなことが生じたかを年代別にクロス集計した

■年代4分類別	40代以下 (n=90)	50~60代 (n=304)	70代 (n=386)	80代以上 (n=145)
そのようなことはなかった	41.1%	55.6%	61.7%	55.2%
株・保険・預貯金など長期に積み立ててきたお金を切り崩した	32.2%	25.7%	14.5%	17.2%
日常生活における食費、衣料費を削った	21.1%	17.1%	8.8%	9.0%

✿ 金銭的負担により、どのようなことが生じたかを再発の有無別にクロス集計した

■再発有無別	再発あり (n=229)	再発なし (n=375)	わからない (n=282)
そのようなことはなかった	45.9%	63.7%	55.3%
株・保険・預貯金など長期に積み立ててきたお金を切り崩した	27.9%	16.3%	19.9%
日常生活における食費、衣料費を削った	17.9%	8.5%	14.9%

■支援について<<がん相談支援センター/がん患者サロン>>

(問27) がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」やがん診療連携支援病院に設置されている「がん相談窓口」を利用したことがありますか【○はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
利用したことがある	138人	14.9%	17.4%
利用したことがない	646人	69.7%	68.4%
知らない	119人	12.8%	10.1%
無回答	24人	2.6%	2.4%

*2022年調査では、回答に「知っているがどこにあるかわからない」という選択肢があったので、合計は100%にならない

(問28) 「がん患者サロン(がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場)」があることを知っていますか【○はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
参加したことがある	24人	2.6%	1.4%
参加したことはないが、知っている	465人	50.2%	42.1%
知らない	417人	45.0%	54.1%
無回答	21人	2.3%	2.4%

がん相談支援センターを「利用したことがある」と答えた方が、前回(2022年)より減り、また、「利用したことがない」「知らない」と答えた方が、前回(2022年)より増えています。相談できる体制があることを知り、一人で悩まず、不安や心配を軽くして治療に向き合う為に必要な支援です。「利用したことはないが、いずれ利用しようと思っている」とコメントされた方もおられました。がん相談支援センターのより一層の周知が必要です。

がん患者サロンについては、知っている方は半数に上りますが、「参加したことがある」と答えた方はわずかです。知らない方は5割弱と多く、がん患者サロンの周知が必要です。その上で、参加しやすい内容の検証と工夫、そして情報発信が必要であると思います。

■支援について<<相談支援や情報提供の充実>>

(問29) がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって軽減されたと思いますか【当てはまるものすべてに○】

回 答	回答者	比率
医療者の支援により軽減された	366人	39.5%
相談支援センターの支援により軽減された	55人	5.9%
がん患者サロンに参加し軽減された	13人	1.4%
患者団体など他の患者さんとの交流で軽減された	18人	1.9%
家族や友人の支援により軽減された	430人	46.4%
インターネット・SNSなどの利用で軽減された	115人	12.4%
そう思わない	75人	8.1%
わからない	179人	19.3%

(問30) 生活上の困難(経済的なこと、就労、就学のことなど)に関して情報提供や相談支援を受ける場合どのような点について充実を望みますか【当てはまるものすべてに○】

回 答	回答者	比率
医療機関における相談支援体制の充実	388人	41.9%
職場(学校)における相談支援体制の充実	125人	13.5%
行政機関(労働局や県など)による相談支援体制の充実	200人	21.6%
行政機関が発信する情報提供サイトの充実	126人	13.6%
行政機関が発行する情報冊子の充実	91人	9.8%
医療機関と職場・学校との連携の推進	91人	9.8%
特に、充実は望まない	47人	5.1%
情報提供や相談支援を受ける必要はない	45人	4.9%
わからない	213人	23.0%
その他	12人	1.3%

「その他」として「仕事が休みの日に相談に行ける日程にしてほしい」「サロンなど行ってみたいが年齢層などわからない」「アナログな一人暮らしには、支援体制や情報が不足している」「医療、行政、職場が連携する」「患者が積極的に相談するのではなく自動的にケアを受けられるようにしてほしい」などが書かれていました。

■全体を通して<<自分らしい日常>>

(問31) がんと診断された時から、自分らしい日常が送れていますか【〇はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
送れており、満足している→問32へ	427人	46.1%	47.2%
送れているが、満足していない→問31-aへ	143人	15.4%	18.1%
送れていないが、満足している→問32へ	167人	18.0%	15.5%
送れておらず、満足していない→問31-aへ	98人	10.6%	12.0%
わからない→問32へ	57人	6.1%	4.7%
無回答	35人	3.8%	2.5%

(問31-a) <問31で「送れているが、満足していない」「送れておらず、満足していない」と答えた方へ>
満足していないと感じた理由についてお書きください

*掲載したご意見は、お寄せいただいた回答の中から一部を抜粋・再構成したものです。
HPに全文を掲載しています。

- ◆就職のスタートが遅れてしまったこと。
- ◆自分らしさは保とうとしているものの、生活の質がグッと落ちてしまった。
あまり心がワクワクする瞬間がなくなってしまった感じがする。
- ◆パートナーを持つこと、子を持つことをあきらめている。
- ◆子どもがまだ小さく、一緒に思いきり遊んであげられなかったり、体が疲れやすく
十分に動けないことが多々あり辛いです。
- ◆障害による行動の制限があり、治療費捻出のため就労するのがやっとであり、
子供の学費等経済的にも苦しい。
- ◆副作用による見た目の変化や疲れやすさで行動的でなくなり、ひきこもりがちである。
- ◆体力が充分回復しておらず、思うようにシフト(仕事)に入れない。
- ◆やはり毎月の治療費で、私のパート代だけでは高額医療を使っても生活が苦しいです。
- ◆術後リンパ浮腫を発症、現在も半年に1回通院。弾性ストッキングの着用が欠かせない。
本人は仕事に戻れず家族も介護休業中。
- ◆働きたいけど体力がついていかない、経営者ですが、従業員のお手本になれない、
収入も不安定に。
- ◆今の体の痛みを和らげる薬のみの処方希望したものの、やはり年令的な事も有って、
日常生活がだんだんと制限される様になり、ツライ。
- ◆排泄について問題がある。対処の方法があれば知りたい。

■全体を通して<<望みにそった治療>>

(問32) 診断や治療、支援の中で、あなたの望み(思い)にそった治療などを受けられましたか
【〇はひとつだけ】

全 体 回 答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
受けられた→問33へ	638人	68.8%	71.7%
受けられたが十分でなかった問32-aへ	81人	8.7%	11.6%
受けられなかった→問32-aへ	17人	1.8%	1.1%
望み(思い)を伝えなかった→問33へ	40人	4.3%	2.1%
わからない→問33へ	98人	10.6%	10.3%
無回答	53人	5.7%	3.1%

(問32-a) <問32で「十分ではなかった」「受けられなかった」と答えた方へ>
十分ではなかった、受けられなかったと感じた理由についてお書きください

*掲載したご意見は、お寄せいただいた回答の中から一部を抜粋・再構成したものです。
HPに全文を掲載しています。

- ◆症状を相談しても、原因が分からないと言われることも多く、痛みを我慢したり相談するのがおっくうになったりしています。
- ◆婦人科診療の主治医と放射線科の主治医に言われた(勧められた)治療の違いが結局よくわからないまま現在婦人科の主治医の治療を受ける。
- ◆主治医とのコミュニケーションが難しく、治療中に2回主治医を変更し、ようやくきちんと話し合える主治医に対応してもらえるようになった。
- ◆治療方法を示してはいただいたが、副作用(抗癌剤)がきつい時の対応が残念でした。「治療を断念したい」と申し入れても「今止めるのはもったいない」と言われたら従うしかない。
- ◆ステージ1なのに手術できないのなら重粒子を教えてほしかった。
- ◆医師が本人ではなく付添に話すが、ガンは本人の苦しみである。
- ◆情報(治療及び副作用等)をもう少し詳しくしてもらえたら良かった。
- ◆乳癌の手術後、リンパ節切除をした腕がずっと重く、動かしにくい。主治医に相談しても、解決策は得られなかった。
- ◆本人(父)は、「苦しい中で死にたくない。最期は、病院で、緩和ケアを受けたい」と希望した。我慢強い父は不調を口に出さず、通院治療と在宅で過ごし(それも本人の希望だが)、「もう限界」とSOSを出した時には数日の命だった。それゆえ、緩和ケア病院への入院に間に合わず、不安と苦痛の中で逝った。診断時にさかのぼり、早くに緩和ケアにも連携できていたならと悔まれる。情報収集を怠った自分も責めている。

■全体を通して<<納得した医療>>

(問33) がんと診断された時から、治療について納得した医療を受けていますか【○はひとつだけ】

全体 回答	2025年(927人)		2022年(989人)
	回答者	比率	比率
受けている→問34へ	777人	83.8%	89.7%
受けていない→問33-aへ	18人	1.9%	1.0%
わからない→問34へ	101人	10.9%	7.3%
無回答	31人	3.3%	2.0%

(問33-a) <問33で「受けていない」と答えた方へ>

納得した医療を受けていないと感じた理由についてお書きください

*掲載したご意見は、お寄せいただいた回答の中から一部を抜粋・再構成したものです。
HPIに全文を掲載しています。

- ◆初診の病院は転移した時の説明が雑すぎて信用できず転院した。
- ◆主治医の説明が不十分に感じる時がある。自分が知識がないためなのか？
- ◆主治医の説明を全て理解する事は難しい。
- ◆むずかしい言葉を並べたてられ、早口で理解不能。
- ◆現在は良いのですが、初めにもっと情報を知るべきでセカンドオピニオンすればよかった。
- ◆わからないから質問しても面倒くさそうに答えるだけなのであまり納得できてない。
- ◆手術・抗がん剤・放射線などの三大医療以外の治療の情報がほしかったし相談できる
ところがあればよかったと思う。
- ◆医師から治療方法を提示されれば、それが最適と思うしかない。後になってから疑問が
残った事があるから。
- ◆次のスキームについての説明不足→今後の生活設計が立てられない。
- ◆良い結果がでないとい他の治療法があるのではと思ってしまった。
- ◆医師の説明不足。
- ◆専門医が病院にいません！とうぜん設備も不足！
- ◆治療方法が他にあることを知らない、聞けなかった。
- ◆抗がん剤の治療中に毎回薬剤師、栄養士の面談があったが知識不足でこちらの質問に
しっかりと答えてもらえなかった。副作用についても、症状の説明はあったが予防方法の
説明はなく、自分で調べて対応した。
- ◆データ画面ばかり見て、問診、触診が全くない。

■全体を通して<<滋賀県のがん対策に望むこと>>

(問34) がん対策について、滋賀県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか
【〇はひとつだけ】

年代4分類別	1位	2位	3位	全体	40代以下 (n=90)	50~60代 (n=304)	70代 (n=386)	80代以上 (n=145)
がんの早期発見(がん検診)				54.9%	58.9%	54.9%	52.3%	59.3%
がん医療に関わる医療機関の整備(拠点病院の充実など)				39.2%	43.3%	43.4%	38.3%	29.7%
がんに関する専門的医療従事者の育成				38.8%	41.1%	47.7%	35.8%	27.6%
がん治療				38.4%	45.6%	43.8%	35.2%	31.7%
がんに関する相談やその支援				29.2%	40.0%	31.9%	25.4%	27.6%
がんに関する情報の提供				24.6%	22.2%	29.3%	22.8%	21.4%
がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備				24.2%	46.7%	30.9%	16.8%	15.9%
緩和ケア				21.6%	24.4%	24.3%	17.4%	25.5%
在宅医療・在宅療養体制の充実				20.2%	22.2%	17.8%	19.9%	24.8%
がん予防(たばこ対策などの生活習慣病対策も含む)				19.2%	17.8%	20.1%	17.6%	22.8%
がんによって就学が困難になった際の相談・支援体制の整備				12.3%	24.4%	13.8%	10.6%	6.2%
子どもに対する、がんに関する教育				10.4%	26.7%	9.9%	8.8%	5.5%
特にない				7.1%	4.4%	3.3%	11.1%	6.2%
その他				2.6%	5.6%	2.6%	1.6%	3.4%

どの年代も、「がんの早期発見(がん検診)」の充実を望んでいることがわかります。

40代以下の世代は、「子どもに対する、がんに関する教育」を望む声が少なくないことが特徴です。自身ががんになって、子どもにどう伝えるかは大きな悩みです。教育によって、正しいがんの知識を全員が持てることで、親も子どもも苦しみ悩むことが減ると考えます。「その他」には「経済的な支援」を望む声がありました。

数字にあらわれない359人の物語

ここからは、アンケート調査の最後に「問35」として設けた自由記載欄に寄せられた359人の声から一部を抜粋して届けます

- がん医療への要望
- がん医療への感謝
- 制度・支援への要望
- 制度・支援への感謝
- がんとの日々

以上の5つのカテゴリーに分けて紹介します

全ての方の声は他のアンケート結果とともに
滋賀県がん患者団体連絡協議会のHPで読むことができます



当会HP <https://www.cancer-patients.shiga.jp/>

「がんと生きるあなたへ 患者さんを支えるあなたへ 医療者のあなたへ」

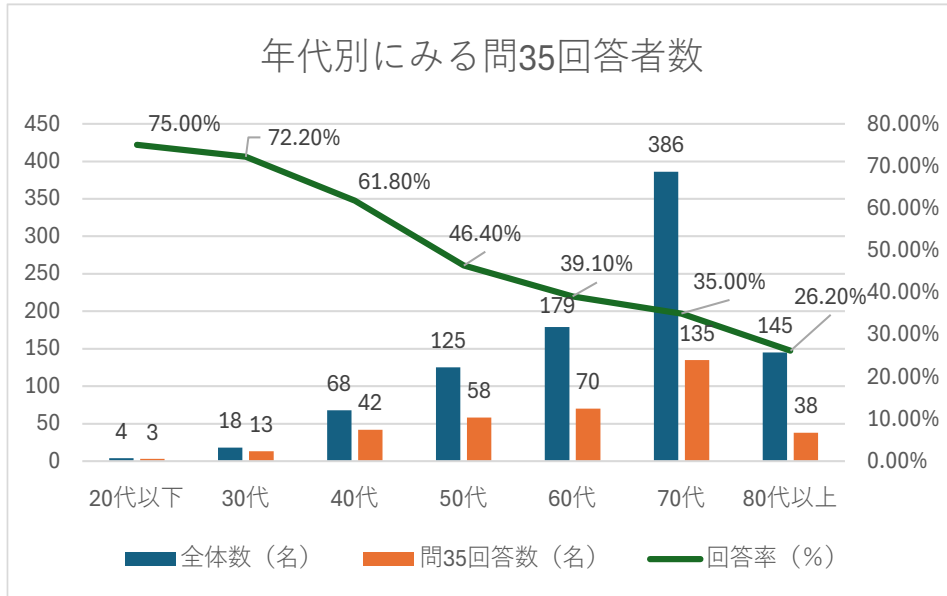
滋賀県がん患者アンケート調査結果

URL



自由記載から読み解く世代別の実態

たくさんの質問に答えてくださったみなさま、ありがとうございました。ここでは、それでもなお、伝えておきたいと書いてくださった、359人の声をまとめました。



359人の世代別の内訳です。40代以下の人たちは多くが問35に答えてくださっています。以下、世代別の意見の傾向をまとめました。

世代別の課題直面率(n=359、複数回答)

「359人の自由記述から抽出された、延べ604件の声」

※1人が複数の課題(例:経済と情報の両方)に言及しているため、延べ件数で集計

年代	医療	経済・助成	仕事	情報	相談	通院
20代	70	100	67	100	85	15
30代	75	75	55	85	78	23
40代	72	83	76	60	65	20
50代	60	68	65	50	60	30
60代	71	45	40	35	45	40
70代	63	25	15	25	30	44
80代以上	65	35	5	15	20	79

声は359件ですが、複数のカテゴリーに渡って意見を書いている方がいます。細かく分けると、604件にもなりました。それを、「経済」「仕事」「情報」「相談」「医療」「通院」というキーワードで分類しました。大きな数字で赤の濃いところは、多くの意見が寄せられた項目です。「医療」は全世代共通ですが、それ以外は、明らかなグラデーションが見られるところが興味深いです。

■抜粋(問35)自由記載欄

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

副作用の話を、冊子だけでなく説明をしてもらえたらと思います。(70代)

パンフレットわたすだけ、5~10分の説明をその場でするだけ。「がん」といわれて、そこまで聞ける理解できる、余裕はないです。(40代)

がん告知の際医者について。患者側に立ったカウンセリングマインドを身につけてほしい。伝えられる側はやはりきつい。十分な配慮がほしい。(70代)

仕方のない事なのかもしれないですが主治医の先生が変わる事が多く…新しい主治医の先生になる度にまた一からの信頼関係をつくり、先生に対してどんな風に接すればいいのか毎回悩むのがしんどいです。(40代)

妊孕性の温存について、かかりつけの病院では親身に話を聞いてくださったものの、現状の県からの治療費の支援では病気の治療と並行して支払うのはとてもじゃないですが、私には厳しかったです。(20代)

一人一人の治療方法が違うのはわかっているけれど…そういうことも納得のいくまで先に説明してほしかったです。無用な心配や不安をしなくてよいように。先生のレベルと無知な一般の患者との間には差があり、つまらないことを聞くのはひかえなければと思いとまどいます。(60代)

待ち時間の長いことに不満です。先生の忙しいのはわかりますが、予約時間の意味がないと思います。(70代)

通院治療で病院に行くのがたいへんで院内で4階の通院治療センターまで歩けないのでこまっています。(70代)

治療中の検査結果の説明をもっと分かり易くしてほしかった。(70代)

検査結果の説明とそれに対する医師の判断と対処方法について及び診断結果の説明については、文書にて患者に出す必要があると思います。(80代)

■抜粋(問35)自由記載欄

がん医療 要望

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

がん治療の初期から、緩和ケアを気軽に受けられる体制があると心の負担感が減るように思います。がん相談窓口も、きっかけがないとなかなか気軽に相談することがむずかしいです。(60代)

遺伝子系のがん患者に対する窓口の充実(腫瘍内科等)を望みたい。また、治療法の確立、研究も含み、情報提供も望みたい。(60代)

“セカンドオピニオン”“緩和ケア”これらが、もっと広がって、気軽に受けられるようになって欲しい。(60代)

がんの治療は体の負担も大きく、思うようにならない体で肉体的にも精神的にも辛いことが多いです。そういった中で気軽に相談できたり、悩みを聞いていただける病院や支援窓口が充実しているといいなと思います。(30代)

「悩みはひとりで抱え込まない」と「がん相談支援センター」のある事(電話だけでもOK)をもっと知らせてあげてほしいです。(60代)

相談支援センターがあるのは知っていたが、分からない事が多すぎて整理できず、利用しなかった。もっと身近に相談できる場所がほしかった。(40代)

がんになっても在宅介護を受けながら自宅で、家族とともに暮らせるように支援してほしい。(70代)

医師を目指す方が、もっともっと増えてくれることを、心から願っています。看護師さんも、検査技師さんも医療に関わる方達が働きやすい環境になりますように。(50代)

夜間に相談支援の窓口(電話)もなく、一人でいる不安をはき出せず体調も良くなれない日々。(60代)

術後の家での療養時の注意点や今までの日々をどのように過ごしてきたかなど入院中のナースが話をゆっくり聞ける体制があると安心して退院できるのではないかと思った。(40代)

■抜粋(問35)自由記載欄

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

支援センターの看護師さんたちの優しさに、いつも癒された。感謝。(60代)

常にかかりつけの病院の先生方がしっかりサポートしてくださってる事がとてもありがたく感謝しています。(40代)

病院での担当医の先生、看護師等の医療スタッフの方々に相談できた事がどれほど頼りになったか知れません。(深く感謝しています)(60代)

家族の支援と訪問看護師さんによる支援で元気になることができます。(60代)

しっかり目を見てこちらの話もよく聞いて下さり、誠実に答えて下さり、信頼できる主治医に出会えたことが有難かったです。(70代)

病院での対応にも不満は一切なく温かなスタッフさんに恵まれました。この上なく幸福で満足した生活を送れています。今まで携ってくださった皆様に感謝しています。(30代)

お世話になった担当医師にすべておまかせして私に合った最良の治療をしていただきました。手術後の治療の時もスタッフ(看護師の方)にも温かくお世話して頂きました。(70代)

先生、看護師さん皆様本当に優しく寄り沿って頂きました。心より感謝しています。お話もていねいに聞いて下さり気持ちもすごく楽になったように思います。素晴らしい先生方でした。(40代)

一番心配した初めての職場復帰の際には、支援センターの方にも聞いていただき、アドバイスをもらって、心軽くして、復帰に向かうことができ、感謝しています。(50代)

特に最初のがんの時の担当先生が「治してあげる」と心強い言葉を掛けて頂き光が見えました。専門医の育成には期待しています。(50代)

■抜粋(問35)自由記載欄

制度・支援 要望

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

働く世代や子育て世代のガンについて、情報が少ない、不安や相談を話す先が分からない。今後の経済的な心配や子どもに対しての不安が大きかった。(30代)

「もしかして転移／再発かもしれない…」と不安になる時があり、そういう時に医療の専門知識を持った電話相談や対面での相談窓口など、気軽に話せる場があればな、と思いました。(20代)

高額療養費制度や多数回該当等の制度をまったく知らなかったのもので、医療費に対する制度を知る機会があれば良いなと思った。(20代)

学校だけでなく、社員研修などにもがん教育を取り入れると良いと思う。(50代)

一人暮らしの方が増々多くなってくると思いますが、近頃のメディアや行政のデジタル一辺倒の傾向は本当に不満で不安です。アナログ人間がまたまだたくさん生きている現在、メディアも行政も多くの人々を取り残したままなのが本当に心配です。これが医療機関の整備や支援体制の充実という点でも心配される点です。(80代)

早期発見(検診)、早期治療の重要性をもっと広報などで啓発、周知する事が重要だと思います。(60代)

制度、支援ありがたいと思いますが、よりよりそった制度、支援を望みます。このような調査により多くの方の理解を得られますように、より良い社会となることを願います。(40代)

高額療養費制度をなくさないでほしい。(50代)

公共交通機関を利用しているが、便数が少く無駄な時間が多く、この点では対処にこまっている。(80代)

■抜粋(問35)自由記載欄

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

制度・支援
要望

SNSがよい時もありますが、何を信じていいのか不安になります。医療の正しい情報をもっと発信して欲しいです。
(30代)

ウィッグ助成金をもう少し上げてもらいたい。もしくは、1人1回の制限を、再発時にもう1度助成金が受け取れるようにして欲しい。
(50代)

アピアランスケアに対する補助の充実を望みます。(20代)

市町村のHPから滋賀県のがん情報にいけるシステム(バナーなど)を作成してもらおうとか、各市町村でがんになった時の支援や手当が一目でわかるようにしてほしいです。(50代)

制度・支援
感謝

月額の上限制度(高額療養費制度)、妊孕性温存の支援等たくさん助けていただきました。
(30代)

健診を受けて発見する事ができ、良かったのかなと思っています。
(40代)

県でこのような支援体制があることを、このアンケートで初めて知りました。手術等、病院で聞けない、聞きにくいこと知れたら、不安感も軽減できたと思う。
(60代)

治療する時に高額療養費制度がとてもありがたかったです。
(40代)

■抜粋(問35)自由記載欄

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

がんとの日々

このようなアンケートを取りに行っている滋賀県、各病院に敬意を表したいです。

(70代)

静養している事を伝えると、病名を知りたそうな感じになるそうです。私が話さないように頼んでいるので家族は静養している事以外は話していないそうです。本人がオープンにしたいくない事を詮索するのは失礼だし、そこから必ず拡がるのはわかっています。そっとしておいてほしいと思います。

(60代)

働きながら治療する事は体力的にも精神的にもきついです。周りの理解があればこそ。

治療中に同じ様ながんを患っている人達との会話は勇気と同じ気持ちで元気づけられた。

(60代)

どんな方がこの文を読むのか不明ですが、あなたが行っている活動が、誰かを救い心の安寧を生むと思います。

お仕事お疲れ様です。自分を大切に。がんばっていきましょう♡

(30代)

がんだとわかってショックでしたが、本人である自分よりサポートすることになる家族のことが心配でした。

子どもにはどうやって伝えようか…夫の落ちこみなど。でも前向きに生きるしかありません。

「残りの人生は自分と家族のために全力で幸せにいきよう！」と思えたことはがんになって唯一？よいことでした。

(30代)

■抜粋(問35)自由記載欄

回答文の表記:趣旨を変えない範囲で、誤字脱字の修正やひらがなの一部漢字変換など読みやすさを考慮した最小限の整理を行っています。

すべての物事に感謝して毎日
生きている。
(70代)

私のがん治療にかかわってくれ
ている、病院スタッフ、家族、友人
職場全ての人へ感謝の気持ちで
いっぱいです。元気になってみん
なに恩を返したい。
(30代)

がんは特別なことではなく、普通
に生きること、そのような話も、き
きたい。
(60代)

「がん」相談、サロン等、そこに入る
勇気がなかった。(がんの自分を隠
していたため)。
AYA世代で気軽に訪問できる場所
が欲しいと思った。
(40代)

勤務先への説明が、大変。
ガンになった事、ガン治療(抗ガン
剤治療)の副作用の説明も、むつ
かしい。
いつ仕事出来るのか?とくりか
えし聞かれ、どう説明したものか
すごく困った。
(50代)

気軽に参加出来る同じ病気の集
いが色々な地域にあれば、出席し
て話を聞けたらと思います。
(70代)

治療室で看護師さんと話す他愛ない会話は、楽しみのひと時にもなりました。
現在も治療中ですが、サークル活動をしたり、ウォーキングをしたりとのんびりと
時間に追われる事無く過しています。
ご飯がおいしいのは最高の幸せです。
そして、すべての人、物に感謝です。
(60代)

■アンケート調査を終えて

がん医療が進歩し、「がん=死」ではない時代になりました。がん患者さんは、罹患年齢、進行度、生活、生き方等患者によって事情が違い、そんな日常と治療の狭間でがんと向き合っておられます。がん治療は診断から経過観察を含め、長い期間に亘ります。

今回のアンケートを振り返ってみると、治療の副作用や治療費など経済的なことに苦しんでいる方が多くおられます。併せて、折角の支援にうまく辿り着けていない現状もわかりました。

また、「医師にわからないことを質問できなかった」「質問したが、結局、わからなかった」と答えられた方も一定数おられます。”わからないことはわかるまで聞く”そんな患者と医療者の十分な対話が、思いにそった治療、納得のいく治療へと繋がるのではないのでしょうか。

「がんになっても自分らしく暮らしたい」そんな想いも見えました。「この報告書を通じて、多くの仲間へエールを届けてほしい」という言葉を託された方もおられます。

このアンケートに込められたひとりひとりの想いから、若者が未来を諦めず、現役世代が責任の重圧に折れず、高齢者が「置いてきぼり」を感じることはないような滋賀県、がん患者や家族がいつまでも自分らしく安心して生きられる滋賀県を作っていくために、以下のような事が必要だと感じます。

1. 「わかった。納得できた。」を支える”患者と医療者との対話の充実”と患者を第一に考えた環境づくり
2. がん患者にとって、とても大切な情報を患者が探すのではなく、「正しくアップデートされた情報」が向こうからやってくる仕組みづくり
3. がん患者の経済的な安定を求めて、がん患者が働き続けられる社会の理解と具体的な就労支援のネットワークの構築
4. 緩和ケアは終末期だけのものではありません。タイミングを逃さないよう、状況を問わずSOSに応えること。診断時から最期までその暮らしと想いを支え続ける”切れ目のない支援体制”

琵琶湖のほとりで
がんと向きあい
今を生きている私たち

決して私ひとりじゃない
決してあなたひとりじゃない

悲しみも よろこびも
母なる湖 琵琶湖に抱かれて
あした天気にな～れ





調査実施集計作業者

滋賀県がん患者団体連絡協議会

菊井 津多子

柳田 英代

八木 政廣

岩本 香奈

塩飽 孝子

滋賀県健康医療福祉部健康しが推進課

時田 幸世

滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門

特任准教授 北原 照代

医学科学生 小泉 奈美子

事務補佐員 森下 玲子

滋賀医科大学医師臨床教育センター

研修医 須賀 弘篤

びわこリハビリテーション専門職大学

客員教授 埴田 和史